

第27回日本核医学技術学会総会学術大会  
ランチョンセミナー



# J-ACCESSデータに 基づく心事故発生予測

座長 **杉林 慶一** 先生 [ 関西医科大学附属枚方病院 ]

演者 **竹花 一哉** 先生 [ 関西医科大学 内科学第二講座 ]

2007年 **7月15日** (日) 12:30-13:15

大阪市中央公会堂 3階 [中集会室(第2会場)]

共催 第27回日本核医学技術学会総会学術大会 / 日本メジフィジックス株式会社



# J-ACCESSデータに 基づく心事故発生予測

竹花 一哉 [関西医科大学 第二内科学講座]

虚血性心疾患のリスクの層別化・予後予測の評価については、欧米で蓄積された心臓核医学検査のエビデンスが診療ガイドラインに反映され、それに基づいた診療が行われている。しかしながら、これまで本邦においては日本人を対象とした十分なエビデンスの蓄積がないため、欧米のデータを用いて行っているのが現状であった。2000年から日本人における心臓核医学検査のエビデンスを構築するための研究、J-ACCESS study (Japanese-Assessment of Cardiac Event and Survival Study by Quantitative Gated SPECT; 虚血性心疾患における心電図同期SPECT検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究) が実施された。全国117施設において負荷心筋SPECT検査および安静時心電図同期SPECT (QGS) を施行した虚血性心疾患4,629症例の3年間にわたる前向きの大規模追跡調査研究である。心筋SPECTのリスク層別化や予後予測における有用性およびQGSの定量性、再現性に関する研究が行われ、昨年日本循環器学会において最初の研究結果概要が報告された。これにより、日本人における心臓核医学検査のエビデンスが構築され、心事故発生率が欧米人に比し低い日本の現状に則した心臓核医学エビデンスを得ることが可能となった。

また上記データベースをより有効に臨床応用する目的で、「Tetrofosmin心筋SPECTスコアおよび心機能等から心事故発生確率を計算するソフトウェア=Heart Risk View」が作成された。本ソフトウェアは、DICOM dataをwindows上で展開可能であり、Tetrofosminによる心筋血流SPECTスコア (SSS, SRS, SDS) の自動算出機能のほか、J-ACCESSデータの多変量解析によって得られたLogistic回帰式により、3年 (J-ACCESSの経過観察期間) 以内の心事故発生確率を算出することが可能であり、結果をレポート形式で出力する機能も搭載されている。

今回はJ-ACCESS研究結果の概要の説明と、心事故発生確率計算ソフトウェアのデモンストレーションを行いながら日常臨床での本研究の効果的な応用について検討をしていきたいと思っております。